

講師のひとりごと

『心を掴むこと』

先日、震災後数少なくなつてしまつた「生牡蠣」を専門に扱うお店に行つてきました。研修が続くと体力も削られていくため、エネルギー充填のため、私の場合思い切り食事を楽しむ日を設けることがあります。そのお店は、広さは約六畳くらいでしょうか、テーブル席はなくカウンターで十名入るくらいはないくらいスペースです。常時四カ所の産地から生牡蠣を取り寄せており、鮮度を維持するための保存機器も充実しているだけに、味は申し分ありませんでした。美味しいものを食べ

お褒め図書のコナー

『下町ロケット』

池井戸潤 著 小学館

この作品はビジネス書ではなく小説です。何故小説を紹介したかと申しますと、この作品は経営者の視点を通して、仕事とは何か、経営者と社員との関係はどうあるべきか、夢に向かって突き進むとはどういうことか、その全てが凝縮された一冊だからです。直木賞を受賞したこの作品は、元ロケット開発の研究者で現一企業の経営者が主人公のストーリーです。多くの危機的状況を社員と共に乗り越え、そして夢に向かって突き進んでいくこの物語は、まるでドキュメンタリーを見

た幸福感からつい笑顔になつてしまいました。そんな魅力的なお店であるだけに、当然生牡蠣を食べたい一心でいらつしやるお客様は後を絶えません。しかしお断りしなければいけない回数も多く、私としてはもう少し広いスペースならいいのに、と感じていました。しかし、その時のオーナーのお断りしなければならぬお客様への対応で、このお店の評価が更に上がりました。「申し訳ありません。只今満席となっております。もしよろしければ、席が空き次第すぐにご連絡差し上げます。いらつしやうしていただけました際は、最高に美味しい牡蠣をご提供させて頂きま

ているかのようにのめり込んでしまいます。タイトルの通り、下町の中小企業が宇宙開発という無謀とも言える分野に挑戦していくわけですが、登場人物一人一人の内面も色鮮やかに描かれているため、ついつい感情移入してしまいます。小説というジャンルではありませんが、ビジネススマンに何が必要かを学ぶには、ビジネス書以上にダイレクトに読者の心に響くオススメの一冊です。『ステイプ・ジョブズ名語録』 桑原晃弥著 P H P 研究所

その言葉の端々から、足を運んでくれたお客様への感謝の気持ち、オーナーとしての店への誇りが感じられました。鮮度維持のためから二十二時までの営業ですが、一度は断られたお客様のほとんどが、待ってましたと言わんばかりの表情で店に来店してました。そしてその数分後には、私と同じ幸せな笑顔になっていました。こういうお店が今後増えていくことが、震災で傷を負った東北に活力を与えてくれるのだなど、美味しい牡蠣を頬張りながらしみじみと感じた一時でした。

ズ。彼の成功の要因は一体何なのか。アップル追放という挫折を味わいながら、成功への道を若実に歩み続けたステイプ・ジョブズの道のりを、無名だった頃から成功者になるまでの数々の発言を厳選し紹介した一冊です。「我慢さえできれば、うまくいったも同然なんだ」等、ステイプ・ジョブズならではの発言とその意味を、分かり易く紹介した一冊です。現状に満足しない人にはバイブルになる一冊かもしれない。



ビジネス教育訓練所(株)
所在地 仙台市青葉区愛子中央3-16-2
TEL 022-392-5511
FAX 022-392-5039
URL http://www.business-k.co.jp

編集後記

春が近づいてきたとはいえ、まだまだ寒さが残る今日この頃ですが、皆様がお過ごしでしょうか。ところで、皆様は大人になるにつれ、時の流れを早く感じたことはありませんか？子供の頃はもつとゆっくり時間が流れていたような気がすることはないでしょうか。同じ時間でも不思議なもので、子供の頃は、動ける範囲も狭く、限られた人間関係の中で成長していきましたが、大人になるにつれ、様々な付き合いが増え、出来ること・やらなければいけないこと等が増えていき、時間に追われることも多くなつていった事もそう感じる一因ではないでしょうか。この一瞬一瞬を大切に生きていきたいものですね。
ビジネス教育訓練所株式会社
閃光編集部 スタッブ一同

閃光

平成二十四年卯月号



Business

鍛錬

経営することや講師として研修を担当することは体力・気力をかなり消耗するので、普段から心身を鍛錬している。特に身体に関しては、創業以来毎日約三十分ジョギングをしている。数年前からは、筋トレも加えて、腕立てを二百回腹筋を千回を基準として実施している。そのせいか、年齢六十を超えても、仕事に支障なく毎日元気に取り組んでいられる。同年代と比べてかなり若く見られているようである。今冬は例年よりも寒さが厳しく雪も多いので、道路を走れない日が多いため、冬期間はフィットネスクラブを利用し、鍛えている。しかしながら、思わぬアクシデントがあった。ランニングマシンでトレーニング中不覚にもバランスを崩し、転倒してしまつたのである。左手を痛め腫れ上がったが、たいしたことはないだろうと思つていた。翌日、どす黒くなり、とても腫れていた。念のため整形外科に行つてみることにした。診断の結果、なんと左の薬指が骨折していた。したがって、ギプスをすることになり、一ヶ月は左手が使えない状況となった。骨折は生まれて初めてのことで、ショックだった。たかだか指の骨折なのだが、生活するのになんと不自由だったか、人間の体はうまくできており、指一つでも大変なことであるとしみじみ感じさせられた。一ヶ月で、ギプス包帯は取つたが、指が思うように動かなくなつていたので、週三回リハビリをして早く回復するよう通院しているところである。それにしても、約一ヶ月固定していると骨折した指ばかりではなく、両隣の指も思うように動かなくなつており、使わないとだめになるものなんだと痛感させられた。人間頭も身体も怠けさせたら錆び付くものである。ところで、トレーニングしている最中、転倒したのは、まだ若いと思つていたものの確実に老いてきているのだらう。さすがに運動神経が鈍ってきたんだなと思わざるをえなかつたし、若いと過信してはいけないと戒めなければいけない。このアクシデントで、運動することによりプレートをかけることなく、より注意深く体を動かし、鍛錬を継続していく決意である。

ビジネス教育訓練所株式会社

代表取締役 三塚 信二

新入社員教育四日間合宿
三月十三日(火)〜十六日(金)

今年最初の新入社員合宿は、大学卒業九名を対象に研修が行われました。人事担当者からは研修に際してはある程度聞いていたようですが、研修冒頭から、聞くことや戸惑いの表情が見て取れました。研修冒頭の姿勢指導から、ビジネスの厳しさをヒシヒシと感じていました。自己紹介では、何度も就職試験で自分の長所などを言ってきたはずなのに、いざ訓練という環境に身を置くと、緊張してスピーチできない、スピーチ以前に一礼を忘れてしまふ失格になるなど、思う様にできない自分の高さを感じたようでした。

しかしそれ以降は、訓練に対し真摯に取り組みの学生時代の甘さを私拭する様に、大きな声を出し、全力で走り、一生懸命さが伝わってきました。特に三日目に行われたエキサイトウォーキングでは、皆で設定した時間を見守りきり、より

参加者の声

合宿に参加して、自分の中で学生と社会人との線引きがきちんとできまう短い期間でしたが、知らなかつた自分を発見出来たと思つています。人間には辛かった合宿も今では皆で「懐かしいね」と笑いながら話をしています。全力で取り組む大切さ、それによって生まれる達成感や喜びをこの合宿では感じる事が出来ました。また、仲間の大切さも実感することが出来ました。エキサイトウォーキングや審査などで挫折そうになったとき、仲間から励ましがあつたからこその無事に卒業することが出来たのだと思つています。これからの人生において、辛いことや苦しいことは数え切れないほどあると思います。しかし、辛かったとき、それでも乗り越えてきた事を思い出して、自分自身を奮い立たせようと思つています。どうもありがとうございました。新入社員としてこのように研修に参加出来、とても貴重な体験でした。大人にならなければならぬこの機会が少なくないと思つています。本当にありがとうございました。

『三つ褒め二つ叱る』

近年、部下を厳しく叱れない管理者が増えてきています。研修の参加者に話を聞くと、簡単なミスや怠慢を見つけても見て見ぬ振りをしてしまったり、叱つたとしても叱っているのか分からないほど優しく注意をするだけの人がいます。そのため、叱られた部下は何がいけなかったのかを深く認識する事ができないので、何度も同じミスを繰り返してしまします。一方で、叱ると怒るをはき違えている管理者もいます。唯々感情にまかせて怒鳴り散らすばかりで、部下を委縮させてしまうのです。これでは部下は失敗を恐れて動けなくなり、意欲を失ってしまいます。「怒る」は相手に感情をぶつけるだけですが、「叱る」とは相手の事を考えて行う事であり、相手が理解したかどうか、重要です。だからこそ、相手を良く見ていなければ効果的に叱る事は出来ません。職務に追われ、部下を見る事が出来ていない管理者が増えてきていることも、厳しく叱れないようになって一因と考えられます。

下の望んでいる事も変わってきています。ある調査によると、「内定が決まっている学生」にアンケートを行ったところ、回答の半数以上が「叱らない上司」を求めていると結果が出たそうです。その結果が背景もあり、近年叱る事が難しくなり、厳しく叱れない管理者が増えているのかもしれないです。しかしながら、組織や部下の将来を考えると叱らなければいけない事もあるのが事実です。そのような時は効果的に「褒める」ことが重要です。二宮尊徳の有名な言葉に「可愛くば五つ教え、三つほめ、二つ叱って、長き人にせよ」があります。そんなに褒めて良いものかと思う人もいるかもしれませんが、是非褒めて下さい。小さな成果でもしっかりと褒める事によって部下は喜びまた頑張ろうと思ってくれるでしょう。しかしながら、褒めるだけでは次第に馴れてしまし、褒める効果が薄れてしまします。だからこそ、気を抜いていたり簡単なミスをした際には厳しく叱ることが必要なのです。部下の状態を良く見て、褒めると叱るをバランス良く行う事で部下を育成していきましょう。

春間近にして雪降り積もる三月中旬、北は東北、南は九州から参加者が集いビジネス特訓四日間合宿が開催されました。工業用ゴム等販売、農業、飲食業から参加があり、参加者は二十代から四十代、今回は半数以上が管理者という状況でした。今回はビジネス特訓と新入社員特訓が同時進行となりましたが、ロールプレイングでは社会経験のあるビジネス特訓参加者が良い見本を示し、新人に刺激を与えていたようです。ビジネス十箇条審査では、なかなか条文を暗記することができず苦戦する人もいましたが、新人がコツコツ練習するのを見て感化され、「新人に負けていけない」と、寸暇を惜しんで練習を開始する訓練生もいました。

研修の様子

運命の最終日は、審査が立て続けに行われ、十箇条審査で苦戦していた訓練生も苦戦して合格を勝ち取り、全員卒業ペースで進んで行きました。しかし、報告審査では自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができず、残念ながら延長となった訓練生もいました。延長した訓練生は、悔しさをバネに最後まで審査に臨み、卒業スピーチでは「この研修を振り返り、殻とは自分の弱点を覆い隠すためのもので、逃げ込むための殻なのだと思います。その殻を破ることは辛いものでしたが、殻を破ることが出来たときには思わず泣いてしまった」と話す訓練生もいました。最後は職場に戻ってから取り組む行動目標を力強く述べ、全てを出し切り、晴れやかな表情で研修会場を去って行きました。今回の研修で学んだ事を忘れず、職場に戻ってからも活躍されることを期待しています。

あの東日本大震災から約一年後の十三日に、研修が始まりました。震災の時も雪が降っていましたが、今回も雪が降る中での研修で、皆息を白くしながら研修に臨んでいました。今回は、次代の経営者からベテラン管理者まで幅広く集まりました。北は青森から南は東京まで、年齢も上は五十五歳、下は三十歳とバラエティに富んでいましたが、お互い協力しながら研修に取り組んでいました。研修においては、三十九歳と三十九歳の、今回の研修を引っ張り盛り上げました。ベテラン管理者も、最初は自分の殻を破れず、また研修の環境にもなかなか慣れず苦労しましたが、徐々に若手管理者に負けてなるかの気持ちで取り組みました。今回の訓練生も、スピーチ審査に大変苦労しましたが、簡潔にまとめて話せない、気持ちを乗せられない等、管理者として必要なスピーチ能力がまだ

まだ足りず、各スピーチ審査で苦労しました。それ以外にも、精読審査では部下にこれまで何もしてこなかった事、自分の甘さに自然と涙がこぼれ、多くの管理者がその涙を堪えながらの精読でした。日毎管理者として一皮剥け、成長を実感している様子が見て取れました。結果規定内修了は一名、他の訓練生も延長二日目までに修了しました。今回は新人研修も同時に開催しており、食事時間や休憩時間でもお互いコミュニケーションを取る場面が見られました。入社前の若い訓練生と接する事で、刺激となり、また自分も頑張らねばと気持ち新たにしました。このように、他の会社やコースの訓練生との交流も合宿訓練の良い点です。今回の気付きや学びを活かし、職場でも全身全霊で職務にあたって欲しいと思います。ご健闘を担当講師一同祈念します。

後継者研修

今年の1月から次世代の経営者育成を考えている企業が集まり、月に1回後継者育成研修を行っています。代表の三塚が直接指導にあたり、会社を背負う人間にとって必要な心構えや考え方を身につけ、ロールプレイも行いながら内容濃い研修となっています。

先日行われた後継者研修は、血縁関係の有無や社歴、役職などそれぞれが置かれている状況が異なるメンバーで行っています。しかしながら、次世代を担うという点に置いて共通していることでお互いに積極的にコミュニケーションを取り合い意欲的に取り組んでいました。

2月で2回目となる後継者研修は、毎回テーマを絞って実施しております。

- これから求められる後継者とは
- 経営者の職務とは
- これからのリーダーシップはどうあるべきか
- 人材育成の重要性
- リーダーの考え方

これまで2回の研修を実施したことで感じたことは、後継者としての意識と能力が各々まだ足りないということです。後継者であることの認識はあるものの、経営者としての考え方が不足しているため、まだまだ会社を任せられないと思われる方が多いようです。実際に経営者としては線が細い方や、社長とは正反対なタイプで引き継ぐ際に苦労しそうな方がいます。能力としては業務を遂行する内に身につけていくかもしれませんが、意識や考え方は一朝一夕では身につけません。

ですからロールプレイングだけではなく、講義や討論を取り入れることで経営者としての考え方を養うよう内容濃く研修を実施しています。

この研修では、あの人の下で働きたいと思える経営者に育つプログラムを進めていきますので、研修を実施している私共も、より使命感を持って研修に当たっております。

どの企業様におかれましても、社長が交代することは慎重を期する事柄です。だからこそしっかりと教育・指導することで安心して会社を任せられる後継者を育てることが、社長の重要な責務なのではないでしょうか。



五月の研修のご案内

■営業マン実践三日合宿

五月六日～八日

営業の理論が分かっている結果が出なければ良い営業マンとは言えません。「短期間で成果が出るような研修を」という要望にお応えして、営業戦略を立てたり、アプローチ・クラッチ・電話アポ・クロージングの実践訓練を初め、講義や顧客管

理のアイデア等、三日間で大変密度の高い内容になっておりますので、なかなか時間の取れない営業マンの方に特にお勧めしたいコースです。

■管理者特訓六日間合宿

五月十三日～十八日

管理者としてのマネジメント能力の開発及び、管理者として正しいものの考え方と行動作法を身につけます。部下に対する指導や接し方、職務における自分の行動を振り返り、心技体と

もに鍛えながら一回り成長するまで意識改革を促します。訓練を通してリーダーシップが身に付くよう妥協せず指導していただきます。

■ビジネス特訓四日間合宿

五月十三日～十六日

基本動作を中心に各審査を通して徹底的に鍛えます。中途採用者やビジネスの基本を今一度しっかり学んで欲しい方にピッタリです。各審査全てを合格しない限り延長となってしまいま

るので、仕事に対する姿勢や考えが甘いと悩みの社員も派遣頂き大変好評を頂いております。

■六月の研修のご案内

六月三日～七日

■営業マン特訓五日合宿
六月三～七日

■マネー実践三日合宿
六月十七～十九日

■管理者実践三日合宿
六月十七～十九日

人間は負けたら終わりなのではない

辞めたら終わりなのだ。

リチャード・M・ニクソン